

「もの忘れ外来」「頭痛外来」を開設

群馬大学大学院医学系研究科

脳神経内科学(神経内科)

教授 岡本幸市



歴史

講座名は「脳神経内科学」、診療科名が「神経内科」です。神経内科という、どんな病気を扱っている診療科なのかまだよく知らない方が多いことと思います。日本で診療科名として「神経内科」が認可されたのは三十年前の一九七五(昭和五十)年で、欧米に比べて五十年遅れていました。

群馬大学医学部附属病院に神経内科が開設されたのは七六年八月からで、初代教授は平井俊策先生でした。現在、北関東の神経内科の拠点として診療に当たっていますが、県内の主な中核病院でも多くの優秀な同門の先生方が神経内科医として活躍しています。



写真1 いろいろな種類の打鍵器

神経内科の診察法

神経内科では病歴をよく聞いた後に、打鍵器(ハンマー)、筆、ピン車などを用いて、頭から足先まで詳しく診察し

ます。特に腱反射をみる打鍵器は神経内科の診察には欠かせないもので、世界では五十種類以上あります。手元にあるものを写真で示します(写真1)。

神経内科で扱う主な病気

神経内科では主に脳、脊髄、末梢神経、筋肉の病気の診療に当たっており、病気の種類はたくさんありますが、比較的多い病気は脳卒中、アルツハイマー病、パーキンソン病、片頭痛、緊張型頭痛、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、顔面神経麻痺、三叉神経痛、脳炎、髄膜炎、多発性硬化症、重症筋無力症、多発筋炎や筋ジストロフィーなどの筋疾患、ギラン・バレー症候群や多発神経炎などの末梢神経障害などです。

もの忘れ外来、頭痛外来

当科では、最近、もの忘れが多い、「ボケが始まったのではないか」など、認知症(痴呆)が気になる方、その家族のために「もの忘れ外来」を開設しています。知的機能評価、血液検査、髄液検査、MRI、SPECT(単一フォトン断層撮影法)などの検査を行い、治

神経内科を受診されるきっかけとなる症状で多いのは頭痛、めまい、ふらつき、もの忘れ、手足の動きが悪い、歩きづらい、手足のふるえ、しびれ、しゃべりづらい、飲み込みづらい、いれん、意識消失発作、意識障害、不眠などです。当科の外来日は火、木、金曜の午前中です。専門外来としては、もの忘れ外来」と「頭痛外来」を開設しています。